

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62100	観光宣伝推進事業費		担当課	商工観光部 観光課		内線	2217
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	6	商工費		分野	1	観光	
	項	2	観光費		基本施策	2	多くの人々に地域の魅力を知ってもらう	
	目	1	観光振興費		施策	1	戦略的な誘客宣伝	
実施計画事業	広域観光推進事業、おもてなしのこころ醸成事業、観光情報発信事業、国際観光都市推進事業、							
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。						

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	受益者数	-
	どういう状態にしたいのか(意図)	出向宣伝、毎年実施する継続的なイベントや関係他団体事業支援等の実施による高山訪問の動機づけ及び周遊・滞在観光の魅力向上		
概要	事業の実施手法(手段)	印刷物・HPなど各種媒体を活用した誘客宣伝 物産展等出向宣伝による直接PR		
前回の評価からの改善・改革のポイント	-			

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	#VALUE!	#VALUE!
① 総合パンフレット作成部数	算出根拠等	部	目標値	-	-	-	-
			実績値	200,000	300,000	200,000	-
達成率(%)			#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	-	
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	#VALUE!	#VALUE!
② 散策マップ作成部数	算出根拠等	部	目標値	-	-	-	-
			実績値	800,000	600,000	800,000	-
達成率(%)			#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	-	
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	#VALUE!	#VALUE!
① 観光客入込数	算出根拠等	千人	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000
			実績値	4,040	3,812	-	-
達成率(%)			81	76	#VALUE!	-	
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	#VALUE!	#VALUE!
② 外国人観光客入込数	算出根拠等	千人	目標値	300	300	300	300
			実績値	148	178	-	-
達成率(%)			49	59	#VALUE!	-	

  

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)		(A)			
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		32,090	31,350	18,875	
一般財源				4,365	18,900	
コスト指標	指標名	単位	H21	H22	H23見込	H24計画
			(A/B)			
①	受益者1件あたり(円)	(A/B)	341	334	249	220
	受益者 市民(4月1日現在)	(B)	94,235	93,822	93,212	93,200
算出根拠等						

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			C(0)
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・総合計画、市長公約に位置付けられ、観光客誘致による経済効果等その重要性は高い	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・観光客増加による地域経済波及の認識は、先の震災の影響などによりさらに浸透している	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・観光客増加により地域経済の活性化につながっている	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	C	・近年の景況の厳しさ等からやや伸び悩んでいる	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・各地での誘客宣伝活動や、各種媒体を活用した広報宣伝で一定の効果を表わしている	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・メディア広告事業の実施主体を民間へ移行	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・タイミング・地域地域・対象を絞ったプロモーションを実施している	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・観光収入は直接、間接的に市民へ外貨獲得そして波及するもので、本事業のコストは妥当である	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・投入コストに見合った成果が上がっている ・民間と協働で事業を実施し業務の効率化を図っているが、行政の視点も含めた運営等今後とも市職員の関与が必要である	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計		10.0 / 20.0	100点換算		50 / 100

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	・高速道路料金制度や震災等による方面別来訪者の検証等、出向地域の検討 ・実施事業の内容精査・改善				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	・観光宣伝は、ターゲットに応じて常に最適な宣伝方法・媒体を選択し、効果的に実施する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	23,240	20,884	△ 2,356	17,490	17,490
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	18,875	1,295	△ 17,580	17,490	17,490
一般財源	4,365	19,589	18,224	0	0

予算要求の概要	国内向けの誘客宣伝、誘客対策 ・観光パンフレット等の作成 ・各種メディア、旅行誌等への情報発信 ・物産展、交通事業者と連携した広域的な事業
要求額増減理由	海外向けの誘客事業に係る経費を海外戦略推進費に移行したことによる減
事業実施の課題	観光客入り込み数年間500万人に向けた取り組み ・多様化する観光客ニーズへの対応 ・ネット等を含めた効果的な観光情報宣伝強化 ・情報通信技術を駆使した新たな誘客展開 ・滞在型観光のPR強化

財務部査定の考え方	積算内容を精査 国際誘客に要する経費は海外戦略推進事務費(総務費)へ移行 飛騨高山観光大学実行委員会負担金は飛騨高山観光客誘致推進協議会負担金に統合
市長査定の考え方	財務部査定のとおりに

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62110	高山祭事業費		担当課	商工観光部 観光課		内線	2217
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	6	商工費		分野	1	観光	
	項	2	観光費		基本施策	1	人々の心を魅了する滞在型・通年型観光地づくりを行う	
	目	1	観光振興費		施策	1	多様な観光需要への対応	
実施計画事業	観光イベント開催事業							
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。						

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客(春と秋の高山祭来場者)	受益者数
	どういう状態にしたいのか(意図)	高山祭の認知度の更なる向上と来訪	
概要	事業の実施手法(手段)	祭協賛会組織による官民一体となった観光客への宣伝・誘致 事業者協賛による祭リーフレット提供による宣伝	
前回の評価からの改善・改革のポイント	—		

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績				
				H21	H22	H23見込	H24計画	
算出根拠等		目標値					-	
		実績値					-	
算出根拠等		達成率(%)					-	
成果指標	②	指標名	単位	目標・実績				
				H21	H22	H23見込	H24計画	
算出根拠等		目標値					-	
		実績値					-	
算出根拠等		達成率(%)					-	
成果指標	①	高山祭人出	千人	目標・実績				
				H21	H22	H23見込	H24計画	
算出根拠等		目標値		-	-	-	-	
		実績値		344	348	370	-	
算出根拠等		達成率(%)		#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	-	
成果指標	②	観光客入込数	千人	目標・実績				
				H21	H22	H23見込	H24計画	
算出根拠等		目標値		5,000	5,000	5,000	5,000	
		実績値		4,040	3,812	-	-	
算出根拠等		達成率(%)		81	76	#VALUE!	-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)			(A)	5,229	5,241	5,280	6,535
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
コスト面	一般財源			5,229	5,241	5,280	6,535	
	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画	
	①	受益者1件あたり(円)	(A/B)	55	56	57	70	
		受益者 市民(4月1日現在)	(B)	94,235	93,822	93,212	93,200	
②								
算出根拠等								

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・高山市を代表する観光資源として観光客誘致による経済効果等その重要性は高い
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	・祭見学者による地域活性化や祭そのものの地域経済波及の認識は以前から浸透している
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・観光客増加により地域経済の活性化につながっている
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・近年の景況の厳しさ等からやや伸び悩んでいる
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・各地での誘客宣伝活動や、各種媒体を活用した広報宣伝で一定の効果を表わしている
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・観光客の安全確保のために、誘導案内の方法を改善した。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・多様化する観光客ニーズや安全対策に対する改善が一部で求められている
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・観光収入は直接、間接的に市民へ外貨獲得そして波及するもので、本事業のコストは妥当である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・投入コストに見合った成果が上がっている ・民間と協同で事業を実施し業務の効率化を図っているが、行政の視点も含めた運営等今後とも市職員の関与が必要である
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		12.0 / 20.0	100点換算 → 60 / 100	

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・祭事業のPRIによる誘客宣伝の継続 ・安全・安心な事業実施と観光案内の実施				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	5,280	6,604	1,324	5,680	5,680
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	5,280	6,604	1,324	5,680	5,680

予算要求の概要	・高山祭案内本部設置及び雑踏警備等 ・高山祭協賛会への支援
要求額増減理由	・案内誘導体制の強化に伴う増
事業実施の課題	・観光客のスムーズな誘導及び安全確保

財務部査定の考え方	積算内容を精査
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62125	飛騨高山教育旅行誘致推進協議会負担金		担当課	商工観光部 観光課		内線	2217
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	6	商工費		分野	1	観光	
	項	2	観光費		基本施策	2	多くの人々に地域の魅力を知ってもらう	
	目	1	観光振興費		施策	1	戦略的な誘客宣伝	
実施計画事業	誘客推進事業							
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。						

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客(教育旅行関係の入り込み)	受益者数	-
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	出向宣伝、招聘事業等による高山訪問の動機づけ及び周遊・滞在観光の魅力向上		
概要	事業の実施手法(手段)	飛騨・高山観光コンベンション協会、飛騨高山旅館ホテル協同組合等の民間団体、バス事業者等と協同した誘客事業		
前回の評価からの改善・改革のポイント	-			

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 誘致活動訪問社数	算出根拠等	千人	目標値	-	-	-	-
			実績値	10	10	-	-
			達成率(%)				
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
② 観光客(教育旅行関係の入り込み)	算出根拠等	千人	目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 観光客(教育旅行関係の入り込み)	算出根拠等	千人	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000
			実績値	4,040	3,812	-	-
			達成率(%)	81	76	#VALUE!	-
事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)(A)				900	900	900	900
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源				900	900	900	900
コスト面	指標名	単位	H21	H22	H23見込	H24計画	
							目標値
① 受益者1件あたり(円)	算出根拠等	(A/B)	10	10	10	10	
		(B)	94,235	93,822	93,212	93,200	
②							
算出根拠等							

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・リピーターにつながる等次世代対策としての観光客誘致による経済効果とその重要性は高い
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・観光客入込全体に占める割合は少ないが、リピーターにつながる世代へのPRとして、継続的な事業実施が必要である
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・観光客増加により地域経済の活性化につながっている
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・人口減少が進む中、教育旅行関係者の入込は順調に推移している
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・各地での誘客宣伝活動や、各種媒体を活用した広報宣伝で一定の効果を表わしている
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・訪問活動に加えて、DM送付による誘致活動を実施
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・時期により、最も有効な地域・対象へプロモーションを実施している
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・観光収入は直接、間接的に市民へ外貨獲得そして波及するもので、本事業のコストは妥当である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・投入コストに見合った成果が上がっている ・民間と協同で事業を実施し業務の効率化を図っているが、行政の視点も含めた運営等今後とも市職員の関与が必要である
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		11.0 / 20.0	100点換算 → 55 / 100	

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・高速道路料金制度や震災等による方面別来訪者の検証等、出向地域の検討 ・実施事業の内容精査・改善				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・高山市以外の構成団体は、旧高山市域の観光商工団体だけであるため、市内の広域的な連携による事業展開を進めていく必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	900	900	0	900	900
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	900	900	0	900	900

予算要求の概要	・官民一体の教育旅行誘致活動を実施するための負担金
要求額増減理由	
事業実施の課題	・民間や関係機関と連携した更なる教育旅行誘致の推進

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部査定のとおりに

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62130	飛騨高山観光客誘致推進協議会負担金		担当課	商工観光部 観光課		内線	2217
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	6	商工費		分野	1	観光	
	項	2	観光費		基本施策	2	多くの人々に地域の魅力を知ってもらう	
	目	1	観光振興費		施策	1	戦略的な誘客宣伝	
実施計画事業	誘客推進事業							
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。						

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	受益者数	-
	どういう状態にしたいのか(意図)	出向宣伝、毎年実施する等継続的なイベントや関係団体事業支援等の実施による高山訪問の動機づけ及び周遊・滞在観光の魅力向上		
概要	事業の実施手法(手段)	飛騨・高山観光コンベンション協会、飛騨高山旅館ホテル協同組合等の民間団体と協同した誘客事業		
前回の評価からの改善・改革のポイント	-			

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	出向宣伝実施回数	千人	目標値	-	-	-	-
			実績値	11	11	11	-
算出根拠等	達成率(%)			#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②	外国人観光客入込数	千人	目標値	300	300	300	300
			実績値	148	178	-	-
算出根拠等	達成率(%)			49	59	#VALUE!	-
事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)(A)				18,900	19,900	18,900	18,700
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			18,900	19,900	18,900	
	一般財源						18,700
指標名				H21	H22	H23見込	H24計画
①	受益者1件あたり(円)	(A/B)	201	212	203	201	
			受益者 市民(4月1日現在) (B)	94,235	93,822	93,212	93,200
②							
算出根拠等							

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			C(0)
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・総合計画、市長公約に位置付けられ、観光客誘致による経済効果等その重要性は高い	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・観光客増加による地域経済波及の認識は、先の震災の影響などによりさらに浸透している	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・観光客増加により地域経済の活性化につながっている	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・近年の景況の厳しさ等からやや伸び悩んでいる	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・各地での誘客宣伝活動や、各種媒体を活用した広報宣伝で一定の効果を表わしている	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・旅行者のニーズに合わせたキャンペーン展開	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・時期により、最も有効な地域・対象へプロモーションを実施している	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・観光収入は直接、間接的に市民へ外貨獲得そして波及するもので、本事業のコストは妥当である	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・投入コストに見合った成果が上がっている ・民間と協同で事業を実施し業務の効率化を図っているが、行政の視点も含めた運営等今後とも市職員の関与が必要である	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計		11.0 / 20.0		100点換算	55 / 100

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・高速道路料金制度や震災等による方面別来訪者の検証等、出向地域の検討 ・実施事業の内容精査・改善				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・高山市以外の構成団体は、旧高山市域の観光商工団体だけであるため、市内の広域的な連携による事業展開を進めていく必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	18,900	18,500	△ 400	18,400	18,400
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	18,900	18,500	△ 400	18,400	18,400
一般財源					

予算要求の概要	・官民一体の観光客誘致活動を実施するための負担金
要求額増減理由	・誘客宣伝事業の見直しに伴う減
事業実施の課題	・民間と連携した更なる観光客誘致の推進

財務部査定 の考え方	飛騨高山観光大学実行委員会負担金を統合 積算内容を精査
市長査定 の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62140	飛騨高山ウルトラマラソン 実行委員会負担金	担当課	商工観光部 観光課	内線	2217
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	4 「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	6 商工費		分野	1 観光	
	項	2 観光費		基本施策	2 多くの人々に地域の魅力を知ってもら	
	目	1 観光振興費		施策	1 戦略的な誘客宣伝	
実施計画事業						
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。				

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客(マラソン愛好者)、市内の民間事業者	受益者数	
	どうい状態にしたいのか(意図)	・ウルトラマラソンという新たな観光資源を活用して、交流人口の増大や地域経済の活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・飛騨高山ウルトラマラソンの開催		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	ウルトラマラソン参加者数		目標値				1,000
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	観光客入込数	千人	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000
			実績値	4,040	3,812	-	-
算出根拠等			達成率(%)	81	76	#VALUE!	-
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②	外国人観光客入込数	千人	目標値	300	300	300	300
			実績値	148	178	-	-
算出根拠等			達成率(%)	49	59	#VALUE!	-
事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)				(A)		1,000	
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源						1,000	
コスト指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				(A/B)	(B)		
①	受益者		目標値			#DIV/0!	
			実績値				
算出根拠等							

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・ウルトラマラソンの開催により、交流人口が増え、高山市への観光客入込数の増加につながるため。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・新たな旅行者ニーズを掘り起こす取り組みであり、交流人口の増大が見込め、地域経済への波及が大きい、地域活性化につながるため。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・観光客数が増加することにより、地域経済への波及が大きくなり、地域活性化につながるため。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	評価対象外	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	評価対象外	
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	評価対象外	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	評価対象外	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	評価対象外	
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	評価対象外	
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		4.0 / 6.0	100点換算 → 67 / 100	

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・第1回飛騨高山ウルトラマラソンを開催する。(参加者数目標1,000人) ・第2回目以降、参加者数を増大させていく方向で、運営体制等の強化を検討する。				

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	1,000	10,000	9,000	10,000	10,000
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	1,000	10,000	9,000	10,000	10,000
一般財源					

予算要求の概要	・第1回飛騨高山ウルトラマラソン(仮称)開催負担金
要求額増減理由	
事業実施の課題	・実施運営体制の構築 ・次年度以降の参加者数の増加対策

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62145	観光協会等補助金 (グリーンツーリズム、コンベンションビュローを除く)	担当課	商工観光部 観光課	内線	2209
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	4 「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	6 商工費		分野	1 観光	
	項	2 観光費		基本施策	1 人々のこころを魅了する滞在型・通年型観光地づくりを行う	
	目	1 観光振興費		施策	1 多様な観光需要への対応	
実施計画事業	観光協会助成事業、誘客推進事業					
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。				

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高山市内の観光協会	受益者数	市内12観光協会等
	どういう状態にしたいのか(意図)	・観光事業の振興及び年間を通じた観光客の誘致促進を図る。 ・滞在型・体験型・着地型観光の促進を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	観光協会の運営に対する支援 観光関係団体が実施する誘客宣伝事業に対する支援		
	前回の評価からの改善・改革のポイント	・『高山市観光協会運営費補助金』要綱の見直し ・滞在型・体験型・着地型観光促進のため、グリーンツーリズム事業推進		

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	観光協会等補助件数	件	目標値	10	10	12	12
			実績値	10	10	12	-
算出根拠等	達成率(%)			100	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②	外国人観光客入込数	千人	目標値	300	300	300	300
			実績値	148	178	-	-
算出根拠等	達成率(%)			49	59	#VALUE!	-
事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)(A)				15,272	14,308	117,000	117,000
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)				15,272	14,308	117,000	
一般財源							117,000
コスト面				H21	H22	H23見込	H24計画
①	受益者1件あたり(円)	(A/B)	162	153	1,255	1,255	
			受益者 市民(4月1日現在) (B)	94,235	93,822	93,212	93,200
②							
算出根拠等	達成率(%)						

## 3 分析・評価(Check)

必要性	評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など		
		A(2)	B(1)				
①	事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・各観光協会がイベント等各種観光誘客事業を行うことで高山市をPRしており、観光客誘致推進に大きく貢献しているため。		
		B(1)	一部結びつく				
		C(0)	結びつかない				
②	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・観光協会の各種観光誘客事業は、高山市にとっても有効であり、観光関連産業をはじめとする地域経済への波及も大きい。		
		B(1)	ある程度のニーズがある				
		C(0)	少ない、減少している				
③	事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・観光客入込数が増加することによって、地域経済への波及が大きくなり、地域活性化につながるため。		
		B(1)	概ね市民全体におよぶ				
		C(0)	わずかな受益者に限定される				
④	事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	C	・全体の観光客入込数はやや減少しているものの、外国人観光客は過去最高を記録したため、概ね達成している。		
		B(1)	概ね達成している (75%以上)				
		C(0)	あまり順調でない (75%未満)				
⑤	成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・観光誘客事業は観光客入込数につながるため、概ね有効であると考えられるものの、事業内容については検討の余地があるため。		
		B(1)	概ね有効である				
		C(0)	見直しが必要である				
⑥	事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	補助金の適正金額については検討したが、各観光協会の事業内容等事務の効率化、新たな観光誘客事業の検討および実施などに現在取り組んでいるため。		
		B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
		C(0)	対応していない				
⑦	コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・各観光協会が事業の見直し、再構築など、市民や観光客のニーズに合った事業の改善・工夫を行っているため。		
		B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
		C(0)	対応していない				
⑧	受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・各観光協会へ補助する事業の性格から判断して、受益者1人当たりのコストは概ね適正である。		
		B(1)	概ね適正である				
		C(0)	改善が必要である				
⑨	成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・成果は一定程度あるものの、誘致手段や経費削減など成果面を向上させる余地があるため。		
		B(2)	概ね適正である				
		C(0)	改善が必要である				
合計		10.0 / 20.0		100点換算		50 / 100	

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・飛騨高山の自然環境を活用した滞在型・体験型・着地型観光など、地元産業と一体となった新たな旅行スタイルを検討、提案していく。				

総合評価 (二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成23年度に創設した観光誘客推進事業補助金を効果的に活用し、戦略的な誘客宣伝を行う必要がある。 ・民間が実施するメリットを生かした誘客事業を実施してもらえるよう働きかけを行っていく必要がある。 ・広域的な観光誘客を一層推進するため、観光協会の再編等について検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費 (人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	117,000	114,352	△ 2,648	115,000	115,000
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	117,000	114,352	△ 2,648	115,000	115,000
一般財源					

予算要求の概要	・観光協会の運営に対する支援 ・観光関係団体が実施する誘客宣伝事業に対する支援
要求額増減理由	・各観光協会の運営計画による減
事業実施の課題	・新たな観光資源の掘り起こしによる全地域が一体となった誘客宣伝事業の展開

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62145	観光協会等補助金 (グリーンツーリズム推進事業)		担当課	商工観光部 観光課		内線	2217
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	6	商工費		分野	1	観光	
	項	2	観光費		基本施策	1	人々のこころを魅了する滞在型・通年型観光地づくりを行う	
	目	1	観光振興費		施策	1	多様な観光需要への対応	
実施計画事業	グリーンツーリズム推進事業							
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。						

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	受益者数	-
	どういう状態にしたいのか(意図)	出向宣伝、受入メニューの充実による訪問の動機づけ及び周遊・滞在観光の魅力向上 見る観光から体験する観光等、新たなニーズに対応した観光地づくり		
概要	事業の実施手法(手段)	グリーンツーリズム事業への支援による新たな顧客獲得、滞在型観光による誘客事業		
前回の評価からの改善・改革のポイント	-			

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① モニターツアー参加者数	算出根拠等	人	目標値	-	600	600	600
			実績値		522	600	-
算出根拠等			達成率(%)		87	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
② 誘客宣伝実施回数	算出根拠等	回	目標値	-	1	1	1
			実績値		1	1	-
算出根拠等			達成率(%)		100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① グリーンツーリズム受入人数	算出根拠等	%	目標値	-	-	-	-
			実績値		4,202		-
算出根拠等			達成率(%)		#VALUE!		-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
② 一般社団法人ふるさと体験飛騨高山会員数	算出根拠等	%	目標値	-	-	-	-
			実績値		40	45	-
算出根拠等			達成率(%)		#VALUE!	#VALUE!	-
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)			0	1,675	2,000	2,000
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				1,675	2,000	
一般財源						2,000	
コスト指標	指標名	単位	H21	H22	H23見込	H24計画	
							① 受益者1件あたり(円)(A/B)
	② 受益者 市民(4月1日現在)(B)		94,235	93,822	93,212	93,200	
算出根拠等							

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・体験、滞在型観光客誘致による新たな誘客 ・滞在時間の向上や付加価値を付けた事業は、経済効果等その重要性は高い
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・観光客増加による地域経済波及の認識は、先の震災の影響などによりさらに浸透している
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・観光客増加により地域経済の活性化につながっている
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・近年の景況の厳しさ等からやや伸び悩んでいる
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・各地での誘客宣伝活動や、各種媒体を活用した広報宣伝で一定の効果を表わしている
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	モニターツアー参加者数の増を図るため、秋・冬シーズンの体験メニューの充実に取り組んでいる。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・時期により、最も有効な地域・対象へプロモーションを実施している
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・観光収入は直接、間接的に市民へ外貨獲得そして波及するもので、本事業のコストは妥当である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・投入コストに見合った成果が上がっている ・民間と協同で事業を実施し業務の効率化を図っているが、行政の視点も含めた運営等今後とも市職員の関与が必要である
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		11.0 / 20.0	100点換算 → 55 / 100	

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・震災等による方面別来訪者の検証等、出向地域の検討 ・実施事業の内容精査・改善				

総合評価 (二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・収集した体験モニターの意見等を踏まえ、官民協働による滞在・体験型観光の魅力を向上させる取り組みを行う必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費 (人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	2,000	2,000	0	2,000	2,000
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	2,000	2,000	0	2,000	2,000
一般財源					

予算要求の概要	・グリーンツーリズムの推進に対する支援
要求額増減理由	
事業実施の課題	・滞在型・体験型・着地型観光としてのグリーンツーリズムの集客力向上

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62145	観光協会等補助金 (コンベンションビューロー助成、コンベンション開催支援)	担当課	商工観光部 観光課		内線 2209
	3					
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	4 「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	6 商工費		分野	1 観光	
	項	2 観光費		基本施策	2 多くの人々に地域の魅力を知ってもらう	
	目	1 観光振興費		施策	1 戦略的な誘客宣伝	
実施計画事業	飛騨・高山コンベンションビューロー助成事業、コンベンション開催支援事業					
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・観光と一体となり消費効果が高い大規模会議や大規模展示会などを、飛騨地域全体で積極的に誘致します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。				

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会 コンベンション開催団体	受益者数	
	どういう状態にしたいのか(意図)	・コンベンションの開催による交流人口の拡大、学術文化の振興および地域経済の活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	【飛騨・高山観光コンベンション協会】 誘致等に関する事業補助金 【コンベンション開催団体】 コンベンション開催に対する支援補助金(飛騨地域を除く参加者50人以上の会議が対象) 国内参加者:1,000円/人、国外参加者:10,000円/人		
	前回の評価からの改善・改革のポイント	・飛騨・高山観光コンベンション協会と高山市の事務事業の見直し ・申請等に関する共通認識の確認		

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画					
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値			
①	コンベンション参加者数 (飛騨地域在住者を除く)	人	目標値	-	7,200	7,200	7,200					
			実績値	5,113	7,606	7,200	-					
算出根拠等	過去4年間の参加者数合計/4年		達成率(%)	#VALUE!	106	100	-					
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画					
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値			
②	コンベンション開催数	件	目標値	31	31	31	31					
			実績値	35	39	31	31					
算出根拠等			達成率(%)	113	126	100	-					
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画					
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値			
①	観光客入込数	千人	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000					
			実績値	4,040	3,812	-	-					
算出根拠等	高山市観光統計		達成率(%)	81	76	#VALUE!	-					
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画					
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値			
②	外国人観光客入込数	千人	目標値	300	300	300	300					
			実績値	148	178	-	-					
算出根拠等			達成率(%)	49	59	#VALUE!	-					
事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額					
歳出(千円)(A)				11,810	14,998	16,063	16,000					
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)											
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			11,810	14,998	16,063						
	一般財源						16,000					
コスト面	指標名	単位	H21	H22	H23見込	H24計画						
							①	受益者1件あたり(円)(A/B)	2,310	1,972	2,231	2,222
							②	受益者 コンベンション参加者 (B)	5,113	7,606	7,200	7,200
							算出根拠等					

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			C(0)
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・コンベンションの開催により、交流人口が増え、高山市への観光客入込数の増加につながるため。	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・コンベンションの開催により、高山市への観光客入込数が増え、地域活性化につながるため。	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・コンベンションの開催により、高山市への観光客入込数が増え、地域活性化につながるため。	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	C	・(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会の積極的な誘致活動もあり、国際大会の件数が年々増えつつあるため。	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・誘致活動や広報活動等がコンベンション開催数や参加者数の増加につながっており、開催数および参加者数が増加しており、成果として現れているため。	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・事務に係る課題等については、(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会と協議をして見直しをしており、事務の効率化に向けて取り組んでいるため。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・飛騨・高山観光協会と飛騨・高山コンベンションビューローが統合したことに伴い、現在、経費の見直しや事務の効率化などに取り組んでいるため。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	・コンベンション開催団体へ補助する事業の性格から判断して、受益者1人当たりのコストは適正である。	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・成果は一定程度あるものの、誘致手段や経費削減など成果面を向上させる余地があるため。	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計			12.0 / 20.0	100点換算	60 / 100

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・飛騨地域全体で積極的なコンベンション誘致を行っていくため、(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会、飛騨市、白川村と協議し、今後の方向性や連携方法の検討を行う。 ・スポーツ大会、音楽祭等のイベントについても多くの交流人口があり、高山市への観光客入込数が増えると考えられるため、コンベンション開催支援補助金の補助対象となるかどうかを検討を行う。				

総合評価 (二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・コンベンション開催支援補助金は、誘客効果や経済効果の高い会議等に対象を絞るなど、観光面や地域活性化とセットにした戦略的な誘致に向けた見直しを行う必要がある。 ・コンベンションビューロー助成は、今後の事業計画及び経営計画に基づき、助成額を再設定する必要がある。 ・大規模会議等を飛騨地域全体で積極的に誘致できる体制の構築に向け、関係機関との協議を進めていく必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費 (人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	16,063	16,063	0	26,063	26,063
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	16,063	11,914	△ 6,149	26,063	26,063
一般財源		4,149	6,149		

予算要求の概要	・飛騨・高山観光コンベンション協会が行うコンベンション誘致事業に対する支援 ・コンベンション開催に対する支援
要求額増減理由	
事業実施の課題	・更なるコンベンション誘致につながる助成制度の見直し ・将来の交通事情の変化を見据えた戦略的コンベンション誘致の検討

財務部査定の考え方	コンベンション等の開催に対する助成制度の拡充(スポーツ大会)
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62150	観光振興関係事務費		担当課	商工観光部 観光課	内線	2209	
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	6	商工費		分野	1	観光	
	項	2	観光費		基本施策	1	人々のこころを魅了する滞在型・通年型観光地づくりを行う	
	目	1	観光振興費		施策	1	多様な観光需要への対応	
実施計画事業	広域観光推進事業							
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。 ・情報通信技術は進化し続けており、日々多様化する全世界からの情報ニーズにもしっかりとこたえていく必要があるため、インターネットや携帯端末機などの最新の情報通信技術（ICT）を駆使した新たな誘客施策を展開します。						

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客(外国人観光客を含む)、市内の民間事業者	受益者数	
	どういった状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザインに基づく観光案内の整備を図る。</li> <li>各種調査・統計等の作成および分析に基づいた戦略的観光宣伝の推進を図る。</li> <li>情報通信技術を活用した誘客施策の展開を図る。</li> </ul>		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>『おもてなし国際化促進事業補助金』の促進</li> <li>交通量調査、観光動態アンケート等の実施、活用</li> <li>携帯端末の位置情報発信機能を活用した観光情報提供システムの導入</li> </ul>		
	前回の評価からの改善・改革のポイント	各種観光基礎資料を基にした戦略的観光施策の検討		

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
				目標値	実績値			
① おもてなし国際化促進事業補助金	件	算出根拠等	実績による	達成率(%)	140	180	100	-
			目標値	5	5	10		
② バリアフリー情報端末設置台数	台	算出根拠等	実績による	達成率(%)	100	100	100	-
			目標値	10	10	10	10	
① 観光客入込数	千人	算出根拠等	高山市観光統計	達成率(%)	81	76	#VALUE!	-
			目標値	5,000	5,000	5,000	5,000	
② 外国人観光客入込数	千人	算出根拠等	実績による	達成率(%)	49	59	#VALUE!	-
			目標値	300	300	300	300	

  

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21	H22	H23	H24	
		決算額	決算額	予算額	実施計画額	
	歳出(千円)	47,550	24,754	13,745	6,500	
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)	21,000	24,754	670		
	一般財源	26,550		13,075	6,500	
コスト指標	指標名	H21	H22	H23見込	H24計画	
		目標値	実績値			
	① 受益者1件あたり(円)	(A/B)	505	264	147	70
	② 受益者 市民(4月1日現在)	(B)	94,235	93,822	93,212	93,200
	算出根拠等					

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	調査等に基づく戦略的施策や観光環境を整えることにより、観光客の増加につながるため。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	積極的な観光施策を展開することにより、観光客数が増え、地域経済への波及が大きくなり、地域活性化につながるため。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	観光客数が増加することにより、地域経済への波及が大きくなり、地域活性化につながるため。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	C	『おもてなし国際化促進事業補助金』の件数は増えており、一定程度の成果はある。また、調査分析についても基礎資料としての成果はあるが、具体的な活用方法を検討中である。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	各事業は観光客入込数につながるため、概ね有効であると考えられるものの、事業内容については検討の余地があるため。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	各事業の課題に対して、それぞれ改善に向け取り組みをしているため。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	市民や観光客のニーズに合った観光誘致事業の改善に向けて検討および工夫に取り組んでいるため。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	観光客、市民(市内の民間事業者を含む)に情報、補助金等を提供する事業の性格から判断して、受益者1人当たりのコストは概ね適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	成果は一定程度あるものの、分析に基づいた新たな施策の検討や実施をする必要があるため。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		10.0 / 20.0	100点換算 → 50 / 100	

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	<ul style="list-style-type: none"> <li>『おもてなし国際化促進事業補助金』については、補助対象の見直し、拡大などの検討を行う。</li> <li>新たに導入する携帯端末の位置情報発信機能を活用した観光情報提供システムの効果的な運用についての検討を行う。</li> </ul>				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光情報提供システムは、既存のシステムも含めたシステム全体の効果的な運用について検討する必要がある。</li> <li>越中・飛騨観光圏協議会負担金は、協議会への国庫補助が廃止となったことを受け、あらためて参加するメリットについて検証する必要がある。</li> </ul>				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	12,745	9,057	△ 3,688	9,504	9,504
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	670		△ 670		
一般財源	12,075	9,057	△ 3,018	9,504	9,504

予算要求の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>広域観光関係団体等負担金</li> <li>観光振興に係る一般行政事務費</li> </ul>
要求額増減理由	おもてなし国際化促進事業補助金を海外戦略推進費に移行したことによる減
事業実施の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光消費額及び波及効果等の把握</li> <li>導入済の観光情報提供システムの効果的な運用についての検討</li> </ul>

財務部査定の考え方	事務費は積算内容を精査し前年並みとする 「日本再発見塾in飛騨高山」開催に対する補助金を予算化 国際誘客に要する経費は海外戦略推進事務費(総務費)へ移行
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62155	旅フェア協賛事業費		担当課	商工観光部 観光課		内線	2217
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	6	商工費		分野	1	観光	
	項	2	観光費		基本施策	2	多くの人々に地域の魅力を知ってもらう	
	目	1	観光振興費		施策	1	戦略的な誘客宣伝	
実施計画事業	誘客推進事業							
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。						

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	受益者数	-
	どういう状態にしたいのか(意図)	旅行目的の来場者や業界関係者へ、高山訪問の動機づけ及び周遊・滞在観光の魅力向上		
概要	事業の実施手法(手段)	飛騨・高山観光コンベンション協会、飛騨高山旅館ホテル協同組合等の民間団体と協同した誘客事業		
前回の評価からの改善・改革のポイント	-			

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 旅フェア入場者数	算出根拠等	人	目標値				
			実績値	105,052	120,832	0	-
算出根拠等			達成率(%)	#DIV/0!	#DIV/0!		-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 観光客入込数	算出根拠等	千人	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000
			実績値	4,040	3,812	-	-
算出根拠等			達成率(%)	81	76	#VALUE!	-
コスト指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
② 外国人観光客入込数	算出根拠等	千人	目標値	300	300	300	300
			実績値	148	178	-	-
算出根拠等			達成率(%)	49	59	#VALUE!	-
事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)(A)				3,983	3,533	3,370	1,400
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			3,983	3,533	3,370	
	一般財源						1,400
指標名				H21	H22	H23見込	H24計画
①	受益者1件あたり(円)	(A/B)	目標値	42	38	36	15
			実績値	94,235	93,822	93,212	93,200
②	算出根拠等						

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			C(0)
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・国内最大規模の旅行博での観光宣伝活動は、PR効果が大きく誘客による経済効果等その重要性は高い	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・観光客増加による地域経済波及の認識は、先の震災の影響などによりさらに浸透している	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・観光客増加により地域経済の活性化につながっている	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	C	・近年の景況の厳しさ等からやや伸び悩んでいる	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・宣伝活動や、各種媒体を活用した広報宣伝で一定の効果を表わしている	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	東日本大震災の影響で「旅フェア」が中止された。日本国内は元より、海外からの参加があるJATA旅博への出展することとして対応した。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・時期により、最も有効な地域・対象へプロモーションを実施している	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・観光収入は直接、間接的に市民へ外貨獲得そして波及するもので、本事業のコストは妥当である	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・投入コストに見合った成果が上がっている ・民間と協同で事業を実施し業務の効率化を図っているが、行政の視点も含めた運営等今後とも市職員の関与が必要である	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計		10.0 / 20.0	100点換算		50 / 100

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・高速道路料金制度や震災等による方面別来訪者の検証等、出向地域の検討 ・効果的な実施方法の改善・検討				
総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・観光宣伝は、ターゲットに応じて常に最適な宣伝方法・媒体を選択し、効果的に実施する必要がある。				
議会からの提言等					

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	3,370	3,439	69	3,300	3,300
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	3,370	3,439	69	332	332
一般財源				2,968	2,968

予算要求の概要	・国内最大級の旅行の見本市「旅フェア」出展に要する経費
要求額増減理由	
事業実施の課題	・宣伝効果の高いブース装飾の検討

財務部査定の考え方	積算内容を精査し前年並み事業費とする
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62300	観光施設運営事業費		担当課	商工観光部 観光課	内線	2209
予算	会計	1	一般会計	政策	4 「にぎわい」のあるまちをめざして		
	款	6	商工費	分野	1 観光		
	項	2	観光費	基本施策	1 人々のこころを魅了する滞在型・通年型観光地づくりを行う		
	目	2	観光施設費	施策	3 観光関連施設の整備		
実施計画事業	観光施設運営事業、観光・交流施設維持修繕改修事業、新穂高エリア環境整備事業						
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・国際的かつ福祉的観光都市として将来的に持続できる歴史、自然、文化、人情、食、技を中心とした観光基盤をさらに発展させ付加価値を高めます。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。					

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民及び観光客	受益者数	人
	どういう状態にしたいのか(意図)	自然資源の活用施設や体験交流施設など観光関連施設の整備を促進することにより、滞在型観光地づくりを推進するとともに地域の振興を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	観光施設29施設の管理運営		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	① 管理施設数	箇所	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
	算出根拠等	指定管理施設数/観光施設数	達成率(%)	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	-
成果指標	②	算出根拠等 <th colspan="4">目標・実績</th>	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
	算出根拠等	事業計画目標数/実績報告数	達成率(%)	96	91	86	-
コスト面	① 施設利用者数	千人	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
	算出根拠等	事業計画目標数/実績報告数	達成率(%)	96	91	86	-
コスト面	② 観光客入込数	千人	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
	算出根拠等	事業計画目標数/実績報告数	達成率(%)	81	76	#VALUE!	-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)(A)		187,738	146,426	140,885	160,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)		2,469	2,046	1,616		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		65,078	54,147	41,043		
コスト面	一般財源		120,192	90,233	98,226	160,000	
	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件あたり(円)(A/B)		169	144	154	150	
	受益者 利用者数 (B)		1,109,856	1,017,997	915,409	1,064,430	
② 一施設当たり(千円)		#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!		
算出根拠等	事業費/施設数						

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	市所有の観光施設は温泉・博物館相当・飲食・駐車場・キャンプ場・スキー場など、多岐にわたっており、通年型観光地づくり、また、観光客年間500万人達成の目指す上でも本事業は重要である。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	地域にとっては重要な雇用の場であり、地域活性化としてのニーズがある。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	利用者としての利便性が向上するほか、サービス従事者数が多いため、滞在型観光客が増加することで間接的ではあるが会社(市民)へ利益が還元される。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	指定管理者制度を活用し、民間の考えで運営にあっているところであるが、経済事情・道路事情等の変化により利用者数が減少している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	指定管理者制度の導入により、利用者へのサービス向上はもとより、運営経費の削減に取り組まれており、施設運営手法としては有効である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	各施設とも建設から10年以上経過し、維持修繕が必要な時期にさしかかっている。緊急性・重要度の高いものを精査し計画的に修繕に向かっているところである。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	各施設とも維持修繕が必要な時期となっているが、緊急性・必要性を十分検討し計画的な修繕を実施している。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	各施設の入館料から鑑みて、概ね適正であると判断できる。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	指定管理者制度の導入により、民間のノウハウを利用した運営を実施することでコスト削減に繋がっている。今後も運営委託を推進していくべきである。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		11.0 / 20.0	100点換算	55 / 100

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	指定管理者制度による運営施設の拡充。休止施設の利活用検討。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・個々の施設について、利用状況や経営状況等を分析したうえで、譲渡や廃止についても検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	140,885	298,861	157,976	214,938	214,938
国庫支出金					
県支出金	254	2,291	2,037	254	254
起債					
その他	42,405	27,152	△ 15,253	118,451	118,451
一般財源	98,226	269,418	171,192	96,233	96,233

予算要求の概要	・観光施設の管理運営 ・新穂高エリアにおける観光環境整備
要求額増減理由	・施設の老朽化に伴う修繕工事費の増 ・新穂高エリア環境整備事業に係る設計業務委託及び施設整備工事費の増 ・老朽化した備品の更新に伴う増
事業実施の課題	・運営を休止している施設の管理及び活用 ・新穂高エリア環境整備事業における周辺の溪流保全工事による影響及び当該地域の観光振興の方向性を勘案した施設整備のあり方の検討 ・老朽化した施設の計画的な維持修繕 ・個々の施設の利用状況や経営状況等を分析した上での譲渡や廃止についての検討

財務部査定の考え方	施設運営費は積算内容を精査し前年並み事業費から施設の廃止等に伴う影響額を減算 施設整備は優先順位の高い整備を実施
市長査定の考え方	財務部査定のとおりに

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62304	スキー場運営事業費	担当課	商工観光部 観光課	内線	2209
予算	会計	1 一般会計	政策	4 「にぎわい」のあるまちをめざして		
	款	6 商工費	分野	1 観光		
	項	2 観光費	基本施策	1 人々のこころを魅了する滞在型・通年型観光地づくりを行う		
	目	2 観光施設費	施策	3 観光関連施設の整備		
実施計画事業	観光・交流施設維持修繕改修事業					
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・国際的かつ福祉的観光都市として将来的に持続できる歴史、自然、文化、人情、食、技を中心とした観光基盤をさらに発展させ付加価値を高めます。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。				

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民及び観光客	受益者数	人
	どういう状態にしたいのか(意図)	自然資源の活用施設や体験交流施設など観光関連施設の整備を促進することにより、滞在型観光地づくりを推進するとともに地域の振興を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	スキー場2施設の指定管理者制度を活用した運営		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	① 管理施設数	箇所	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
	算出根拠等	指定管理施設数/スキー場施設数	達成率(%)	100	100	100	-
成果指標	②	算出根拠等 <th colspan="4">目標・実績</th>	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
	算出根拠等	達成率(%)				-	
成果指標	① 施設利用者数	千人	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
	算出根拠等	事業計画目標数/実績報告数	達成率(%)	80	75	75	-
コスト面	② 観光客入込数	千人	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
	算出根拠等	達成率(%)	81	76	#VALUE!	-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)		(A) 24,850	39,902	20,000	20,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)		984	415	1,015		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		3,087		6,321		
コスト面	一般財源		20,779	39,487	12,664	20,000	
	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件あたり(円)	(A/B)	310	535	267	267	
	② 一施設当たり(千円)	(B)	12,425	19,951	10,000	10,000	
	算出根拠等	事業費/施設数					

## 3 分析・評価(Check)

必要性	評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
		A(2)	B(1)			
①	事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	通年型観光地づくりを実施する中で、冬期間のレジャーとして重要な施設である。	
		B(1)	一部結びつく			
		C(0)	結びつかない			
②	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	地域にとっては冬期間の重要な雇用の場であり、本事業の継続実施は重要である。	
		B(1)	ある程度のニーズがある			
		C(0)	少ない、減少している			
③	事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	冬期間のレジャー提供及び雇用の場として利用されている。	
		B(1)	概ね市民全体におよぶ			
		C(0)	わずかな受益者に限定される			
④	事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	指定管理者制度を活用し、民間のノウハウにより運営しているが、スキー人口の減少、経済事情・道路事情の変化により利用者数が減少している。	
		B(1)	概ね達成している (75%以上)			
		C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤	成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	指定管理者制度の導入により、利用者へのサービス向上はもとより、運営経費の縮減に取り組まれており、施設運営手法としては有効である。	
		B(1)	概ね有効である			
		C(0)	見直しが必要である			
⑥	事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	索道設備の安全性を確保するため、毎年維持修繕費が必要となっているが、設備の整備計画に沿って維持管理しているところである。	
		B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
		C(0)	対応していない			
⑦	コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	毎年維持修繕費が必要となっているが、設備の整備計画に沿って維持管理しているところである。	
		B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
		C(0)	対応していない			
⑧	受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	リフト利用料から鑑みて、概ね適正であると判断できる。	
		B(1)	概ね適正である			
		C(0)	改善が必要である			
⑨	成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	指定管理者制度の導入により、民間のノウハウを利用した運営を実施することでコスト削減に繋がっている。今後も運営委託を推進していくべきである。	
		B(2)	概ね適正である			
		C(0)	改善が必要である			
合計		11.0 / 20.0		100点換算		55 / 100

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	指定管理者制度による施設運営の継続。投資効果と地域への経済波及効果等を十分精査した上でのスキー場の具体的な管理方針を策定。				

総合評価(二次評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	市営3スキー場の今後の運営方針を早期に定める必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	20,000	66,043	46,043	18,000	18,000
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	7,336	13,073	5,737	13,073	13,073
一般財源	12,664	52,970	40,306	4,927	4,927

予算要求の概要	・リフト等施設の改修
要求額増減理由	・施設の老朽化に伴う修繕工事費の増
事業実施の課題	・投資効果と地域への経済波及効果等を十分精査した上でのスキー場の具体的な管理方針の策定 ・施設の老朽化に伴う計画的な維持修繕

財務部査定の考え方	施設整備は優先順位の高い整備を実施
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62315	観光案内所運営事業費		担当課	商工観光部 観光課		内線	2209
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	6	商工費		分野	1	観光	
	項	2	観光費		基本施策	1	人々のこころを魅了する滞在型・通年型観光地づくりを行う	
	目	2	観光施設費		施策	2	受入体制の整備	
実施計画事業	観光案内所運営事業							
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。						

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	外国人も含めた観光客	受益者数	303,859 件
	どういう状態にしたいのか(意図)	観光客満足度を高めることで、より多くの観光客を誘致する。また外国人観光客への対応も行い、海外からも観光客を確保する		
概要	事業の実施手法(手段)	観光案内所窓口及び電話での観光案内、外国語版も含めた観光パンフレットの配布		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		観光案内所における案内件数及びパンフレット配布件数	件	目標値				
		実績値		356,341	303,859	400,000		
算出根拠等	観光統計	達成率(%)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!		-	
成果指標	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		外国人観光客入込み者数	千人	目標値	300	300	300	300
		実績値		148	178	-	-	
算出根拠等		達成率(%)		49	59	#VALUE!	-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)				4,689	4,555	4,780	5,000
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
コスト指標	一般財源				4,689	4,555	4,780	5,000
	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件あたり(円)(A/B)		13	15	12	12		
	② 受益者 観光案内件数(B)		356,341	303,859	400,000	420,000		
算出根拠等								

## 3 分析・評価(Check)

必要性	①	評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
		事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく B(1) 一部結びつく C(0) 結びつかない	A	観光客満足度を上げることにより、高山市への再来訪客を増加させることができる。それにより市長が掲げている年間の観光客目標数を達成することにつながる。
成果面	②	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している B(1) ある程度のニーズがある C(0) 少ない、減少している	B	観光客への対応が主であるため、市民はあまり必要とされていないが、観光客に対する積極的な観光案内を求めている点で、ある程度のニーズがあると考える。
		事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ B(1) 概ね市民全体におよぶ C(0) わずかな受益者に限定される	B	分け隔てなく情報提供をしているので、その利益は概ね市民全体に及ぶと考える。
		事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上) B(1) 概ね達成している (75%以上) C(0) あまり順調でない (75%未満)	B	高山市への再来訪希望者は、近年高水準で推移しており、外国人観光客数も増加傾向にあるため、概ね達成していると考ええる。
コスト面	③	成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である B(1) 概ね有効である C(0) 見直しが必要である	B	外国語版のパンフレットの種類を増やしたり、対応言語を増やすなどの実践を行い、実際に外国人観光客数が増加したため、概ね有効であると考ええる。
		事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている B(1) 改善・工夫に取り組んでいる C(0) 対応していない	B	観光客のニーズに沿った行政情報を提供できるよう改善・工夫に取り組んでいる。
		コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている B(1) 改善・工夫に取り組んでいる C(0) 対応していない	B	無駄な物は買わないことはもちろん、再利用を心がけるなど需用費のコスト削減などの改善・工夫に取り組んでいる。
成果対コスト	④	受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である B(1) 概ね適正である C(0) 改善が必要である	A	案内件数1件あたりに対し、コストがかかりすぎているというわけでもないため、概ね適正であると考ええる。
		成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である B(2) 概ね適正である C(0) 改善が必要である	A	コストがかかりすぎているということではなく、成果も出ていることから適正であると考ええる。
		合計	14.0 / 20.0	100点換算	70 / 100

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	利用者からの意見を真摯に受け止め、改善を図り、更なる観光客満足度を向上させる。				
総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				
議会からの提言等					

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	4,780	5,750	970	4,780	4,780
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	4,780	470	△ 4,310	426	426
一般財源		5,280	5,280	4,354	4,354

予算要求の概要	・高山駅前及び古い町並内の観光案内所の管理運営
要求額増減理由	・繁忙期における案内体制の充実に伴う増 ・老朽化した備品の更新に伴う増
事業実施の課題	・外国人観光客に対する案内体制の充実

財務部査定の考え方	積算内容を精査し前年並み事業費とする
市長査定の考え方	財務部査定のとおりに

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62320	観光施設管理事務費		担当課	商工観光部 観光課		内線	2209
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	6	商工費		分野	1	観光	
	項	2	観光費		基本施策	1	人々のこころを魅了する滞在型・通年型観光地づくりを行う	
	目	2	観光施設費		施策	3	観光関連施設の整備	
実施計画事業								
市長の約束 1 積極的な観光振興策を実施します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。								

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民及び観光客	受益者数	257,408 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	滞在型・通年型の観光地づくりを行うための観光関連施設の維持管理を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	乗鞍インターネットライブカメラ等の管理運営		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①	インターネットライブカメラ配信回数	回	目標値	12,816	12,816	12,816	12,816
実績値		11,352	11,976	12,600	-			
算出根拠等		24回/日×169日+24回/日×365日	達成率(%)	89	93	98	-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①	インターネットライブカメラHP閲覧者数	人	目標値	256,954	270,538	235,777	235,000
実績値		273,926	257,408	266,467	-			
算出根拠等		目標値/ライブカメラ閲覧実績値	達成率(%)	107	95	113	-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額		
	歳出(千円)(A)		643	405	562			
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源		643	405	562				
コスト指標	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画		
	①	受益者1件あたり(円)(A/B)	2	2	2			
受益者 利用者数 (B)		273,926	257,408	266,467				
②	1カメラ配信当たり(千円)	322	203	281				
	算出根拠等	事業費/カメラ数						

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			C(0)
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	乗鞍へは年間約20万人の観光客が訪れており、本事業のライブカメラによる映像配信は乗鞍への誘客の一端を担っている。	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	乗鞍は高標高地で気象も変わりやすいため、タイムリーな現地情報を求める観光客が多い。	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	利用者としての利便性が向上するほか、滞在型観光客が増加することで間接的にサービス従事者に利益が還元される。	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	乗鞍量平へのカメラ設置は、天候に左右されるが、概ねスカイライン開通に合わせて配信できるように実施している。	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	現地に訪れようとする観光客に対し、現地の様子を視覚的に情報提供することが出来るため乗鞍への誘客事業として有効である。	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	今後もスカイライン開通にあわせて速やかに映像を配信できるよう取り組む。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	シーズン前のカメラ設置及びシーズン後のカメラ撤去費用が毎年必要となっているが、厳冬を乗り越えるため必要であり、現状でこれ以上のコスト削減の余地はない。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	利用者に与える情報量を考えると、受益者一人当たりのコストは適正であると判断できる。	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	投入コスト以上の成果が上がっている。	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計		13.0 / 20.0		100点換算	65 / 100

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	継続してインターネットライブ映像を配信する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	562	658	96	562	562
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	562	658	96	562	562

予算要求の概要	・乗鞍インターネットライブカメラ等の管理運営
要求額増減理由	
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	積算内容を精査し前年並み事業費とする
市長査定の考え方	財務部査定のとおり